『王子と苦行者〈ビラウハル〉の物語』所収話の類話と文献

Parallels of the embedded stories in *The King's Son and the Ascetic*

西　村　正　身（作新学院大学名誉教授）
Nishimura Masami（Sakushin Gakuin University, Professor Emeritus）

はじめに

1）網羅的なものではないので情報のない項目もあり、精粗まちまちであるが、ご寛恕いただきたい。お気づきの点、御教示いただけますと幸いです。

2）番号は前号（第13号）掲載の「所収話対照一覧」の番号で、01～44はボンベイ版Bombay、45～51はイブン・バーブーヤ IB、52～71はイブン・ハスダーイ IH、72～77は新約聖書、78はアリスティデスである。各版相互の対照は「所収話対照一覧」を参照。

3）全体に亘る参照文献に次のものがある。

Chauvin = Chauvin, V., *Bibliographie des ouvrages arabes*, tom. 3, 1898, pp. 97~112（Résumé des contes）. 類話等の指摘は今なお有益である。

Kuhn = Kuhn, E., *Barlaam und Joasaph. Eine bibliographisch-literargeschichtliche Studie.* In: Abh. der philos. philol. Classe der K. Bayer. Akad. d. Wiss., 67（1894）, pp. 74~82（Anhang I）

Jacobs = Jacobs, J., *Barlaam and Josaphat*, Bibliothèque de Carabas, vol. X, David Nutt, London, 1896, pp. cvi~cxxxii（Appendix II）

Hirsh = Hirsh, J.C., *Barlam and Iosaphat*, EETS 290, Oxford U.P., 1986, pp. 195~203（Appendix A）

Cordoni = Cordoni, D.,（Dissertation）*Barlaam und Josaphat in der europäischen Literatur des Mittelalters*, Wien, 2010, pp. 481~483（cf. De Gruyter, 2014）

4）紙数の関係で「書名・人名索引」は割愛させていただく。

類話と文献

01）枠（Chauvin 1）

Bombay, 3ff. Kuhn, 15ff. Jacobs, xcvii.

ブッダ伝：アシュヴァゴーシャ『ブッダ・チャリタ』。『ブッダの境涯（ラリタヴィスタラ）』。ヨハネス・ゴビウス『スカーラ・ケーリ』958。マルコ・ポーロ『東方見聞録』6・195「続セイラン島」。

四門出遊：『ジャータカ』「ニダーナ・カター」Ⅱ（68ページ）。『薬事』巻11。『四分律』巻31～33。『方広大荘厳経』14。『ブッダの境涯』（ラリタヴィスタラ）15。『仏本行集経』14・16～15・20上。『仏所行讃』3。『修行本起経』4。『過去現在因果経』14。『出曜経』2。『六度集経』77。『今昔物語集』1・3。『三国伝記』1・1。アッタール『神の書』16・1。トルストイ『懺悔』6。

老病死は閻魔が遣わす三天使：『長阿含経』4・4。『増壱阿含』24・32。

魔女の誘惑を退けるブッダ：『仏所行讃』13。『ジャータカ』「ニダーナ・カター」Ⅲ（90ページ）。『仏本行集経』28。

寝乱れた女たちを見る：『中本起経』2。『過去現在因果経』15、32（長者の息子耶舎の話）、『衆許摩訶帝経』43（同じく耶舎。この耶舎の話については岩本裕『佛教入門』72～74ページも参照。ベナレスの富豪の息子である）。『ジャータカ』「ニダーナ・カター」Ⅱ（71ページ）。『仏説普曜経』4・12。『方広大荘厳経』15。『ブッダの境涯』（ラリタヴィスタラ）15。『仏本行集経』16・21上。『ラーマーヤナ』5・10（ラーヴァナの王宮の王妃たち）。

ヨハンネス・デ・アルタ・シルウァ『ドロパトス』（拙訳解説256～260ページ）。ローペ・デ・ベーガ『バルランとホサファ』。

参考：アッタール『イスラーム神秘主義聖者列伝』「イブラーヒーム・アドハム」。カルデロン『人世は夢』。慧皎『高僧伝』巻10（ただ一人殺戮を逃れた釈曇始。『バルラーム』冒頭に似る）。

「47　無常を知り出奔した王子」参照。

研究史：Kuhn, Jacobs, Gimaret, Cordoni.

上田敏『菩薩物語由来』（『上田敏全集』9、教育出版センター、pp. 54~63）。岩本裕『インドの説話』2・2「キリスト教とインドの説話」。松原秀一①『中世ヨーロッパの説話』（中公文庫）／②「聖バルラームと聖ジョザファ伝研究序説」（言語文化研究所紀要、10、1978、pp. 45~62）。渡辺愛子「バルラームとヨサファート」（仏教セミナー、22、1975、pp. 14~26）。松村恒「Analecta Indica, XLV. 四門遊観の一伝承」（大妻比較文化、10、2009、pp. 73~90のうち73~78）。中原暁彦（シャンパーニュ版「聖バルラームと聖

ヨサファト伝」についての論考)。

挿絵：Sirarpie der Nersessian, *L'Illustration du roman de Barlaam et Joasaph*, 2 vols., E. de Boccard, Paris, 1937. Jules Leroy, «Un nouveau manuscrit arabe-chrétien illustré du Roman de Barlaam et Joasaph », in : *Syria*, xxxii, 1955, pp. 101~122. Budge, *Baralâm and Yĕwâsĕf*, p. 341 以下に Augsburg, 1477のドイツ語版 *Barlaam und Jehosaphat*（バルラームとイェホザファット）の64枚の木版画がある。

聖人の祝日：ジョージア（グルジア）正教＝5月19日（ヨアサフ)。ギリシア正教＝8月26日（ヨアサフ)。ロシア正教＝11月19日（二人＋ヨアサフの父アベンネル王)。ローマ・カトリック教会＝11月27日（二人)。

02）王とかつての相談相手

Bombay, 5f.

『法句譬喩経』3に「心中の悪意の弓刀を棄て」よ。『聖若撒法始末』2オ。

03）王に試される大臣（Chauvin 2）

Bombay, 19~25. Kuhn, 17.

サンチェス『ABC 順説話集』75(4)、283(215)。フアン・マヌエル『ルカノール伯爵』1。『聖若撒法始末』5ウ。

ハレ要約版と加津佐版にはないが（イブン・バーブーヤ版 IB は不明)、「言葉の医者」（あるいはそれに類する表現）については、アイスキュロス（B.C. 525~B.C.456）『縛られたプロメーテウス』378「病める心を癒すのは言葉である」（言葉は病んだ気性の医師である)、メナンドロス（B.C. 342~B.C. 291）の作品名不詳の断片663「言葉は人間の病いの医師である。／これのみが魂を軽くしてくれる」を参照。

04）信心深い王と死の太鼓（Chauvin 3）

Bombay, 40~42. Kuhn, 18, 49, 74f. Jacobs, lxi~lxvii, cvii~cviii. Hirsh, 197. Cordoni, 481~483.

『アショーカ王伝』9（アショーカ・アヴァダーナ。定方晟訳137～147ページ。『ブッダが謎解く三世の物語（ディヴィヤ・アヴァダーナ)』28「在家信者の兄と出家者の弟」)。ただしこの冒頭は異教を信じる弟を諫めるために王が家臣と示し合わせて罠を仕掛けることになっており、同じ『アショーカ王伝』4の45ページに見られるモチーフ（出家者に出会った王が恭しく挨拶すると家臣が諫める）のほうが本話の冒頭に近い。この二か所が合わせられたものであろう。『アショーカ王伝』4のほうは康僧会『旧雑譬喩経』49（Chavannes 143）にもある。弟を訪れる死刑執行人の持つ鈴がのちに太鼓やラッパに代わっていったものと推測される。『コーラン』23・103 [101]、39・68、80・33～37（最後の審判のときラッパの音が二度響き渡る）を参照されたい。ブハーリー『ハディース』「預言者達」35(3)、「コーラン解釈の書」の「群なす人々」3にも記されている。

『阿育王経』3「毘多輪柯因縁」。『阿育王伝』2「阿恕伽王弟本縁」。『出曜経』6（Chavannes 493。『アショーカ王伝』9と同じ）。『大王統史（マハーヴァンサ）』5(5世紀。187f.)。『沙石集』7・4（『阿育王経』3より）。

ボーヴェ『道徳の鑑*Speculum Morale*』2・2・5（coll.781）。ジャック・ド・ヴィトリ『エクセンプラ』42（「死のトランペット」に投げ槍のモチーフが続く）。ヨハネス・ゴビウス『スカーラ・ケーリ』609。サンチェス『ABC順説話集』192(121)、292(223)。『ゲスタ・ロマノールム』143。ガワー『恋する男の告解』1・8「死のラッパ」。『聖若撒法始末』11オ。

参考話：『六度集経』90（お忍びで町に出た王が、「王ほど楽な者はない」と言う老人に会う。酔わせて王宮に運び、国政を任せる。疲労困憊した老人を再び酔わせて元の場所に戻すと、老人は前言を撤回する）。利瑪竇（マテオ・リッチ）『畸人十篇』（1608）第四「常念死候備死後審」其一（柴田篤「『畸人十篇』の研究（二）――第三篇・第四篇訳注稿――」哲学年報、第71輯、平成24 <2012>.3、pp. 143~176）。死刑判決を受けた息子に王が七日間だけ王位を譲り、毎日死期が迫っていることを召使いを通じて王子に告げさせる。楽しめなかった王子は改心する。

ダモクレスの剣（ATU981A*「１本の絹糸でつながれた命」）：キケロ『トゥスクルム荘対談集』5・21。ジャック・ド・ヴィトリ『エクセンプラ』8、42（ラッパのモチーフを含む）。ヨハネス・ゴビウス『スカーラ・ケーリ』610。

剣ではなく石を頭上に吊るす：ピロストラトス『英雄が語るトロイア戦争』（3c. 注187）。ヒュギーヌス『ギリシャ神話集』82「タンタロス」（巨大な岩）。

05）四つの小箱（Chauvin 4）

Bombay, 42~44. Kuhn, 18, 49, 74f. Jacobs, lxi, cvii. Hirsh, 198. Cordoni, 481~483.

Jacobs, lxvi と lxvii の間に Pedigree of the “Three Caskets” がある。

『アショーカ王伝』2（定方晟訳23～25ページ）の太子選定の話が究極の源泉であろうか。金の座具や銀の座具ではなく大地にすわったアショーカが後継者となる。『阿育王経』1、『阿育王伝』1。

ジャック・ド・ヴィトリ『エクセンプラ』47。ヨハネス・ゴビウス『スカーラ・ケーリ』128。『ゲスタ・ロマノールム』251。ガワー『恋する男の告解』5・3「二つの金箱の物語」。ボッカッチョ『デカメロン』10・1。ストラパローラ『楽しい夜』12・5。シェイクスピア『ヴェニスの商人』Ⅰ2、Ⅱ1・7・9。『聖若撒法始末』12オ。

参考（高価ではないものの中に財宝などを入れて手渡す）：『カターサリットサーガラ』69「ラクシャダッタ王と家臣ラブダダッタ」。『ノヴェッリーノ』79。『ゲスタ・ロマノールム』109。

Benfey, *Pantschatantra*, I, §166（p. 407ff.）. 岩本裕『インドの説話』2・3「ヨーロッパ

の文学とインドの説話（一）」。

四つの小箱は『ビラウハルとブーダーサフ』で初めて登場したモチーフなのかもしれない。このモチーフをヨーロッパに伝えたのはギリシア語版『バルラームとヨアサフ』BJ であるという（伊藤正義『ゲスタ・ロマノールム』251訳注）。

参考：『新約聖書』「マタイ」23・27に白塗りの墓（外側は美しいが内側は死者の骨やあらゆる穢れで満ちている。偽善者の象徴とされる）。

06）種を蒔く農夫（Chauvin 5）

Bombay, 44~45. Kuhn, 18, 39. Jacobs, cx~cxi.

『新約聖書』「マタイ」13・3～23、「マルコ」4・1～9、「ルカ」8・4～8。

『菩薩本行経』中（よく肥えた土地に種を蒔けば、種は少しでも収穫は多い）。『サキャ格言集』171後半（悪い畑に種を蒔くこと／望み多くして実り少なし）。ブハーリー『ハディース』9c.「知識の書」20に同趣旨の記述（邦訳 1）。『コーラン』2・264～265、48・29参照。

ハレ要約版 6 に「まだ若かったときに心に染み入る言葉を聞いたことがあります。それが蒔かれた種のようになり、やがて芽を出し、成長し続けて、御覧のような木になったのです」という苦行者の言葉がある。ほかに Bombay 8（67p.）, Balavariani 3（56p.）, BJ 2.11, BY 10p.,『聖若撒法始末』3 オ。

07）医者と病人

Bombay, 45~46.

アシュヴァゴーシャ『ブッダ・チャリタ』23・55（医者は病気の性質に従って薬を処方する）。

08）井戸の中の男（Chauvin 6）

Bombay, 47~48. Kuhn, 20~21, 36, 49, 76~77. Jacobs, lxx~lxxvii, cxi. Hirsh, 199. Cordoni, 481~483.

ATU934F「井戸の中の男」。

『マハーバーラタ』11・5~6。『衆経撰雑譬喩』8（Chavannes 205）。『仏説譬喩経』（Julien, 32）。『賓頭盧突羅闍為優陀延王説法経』（大正蔵32、787a19~28）。『経律異相』44・33（譬喩経 7 。Chavannes 469）。『法苑珠林』44（626ab）。『維摩経』2 に記される「古井戸」がこの物語を暗示しているか。『維摩詰所説経』（大正蔵14、539b26～27）。『注維摩詰経』2（大正蔵38、342b）。『維摩経義疏』（大正蔵38、934c13～24）。『四分律行事鈔資持記』中―上（大正蔵40、253c、「大集云」として）。ヘーマチャンドラ『パリシシュタパルヴァン』Ⅱ191～218（第一話）。『カターラトナーカラ』209。アラビア語版『カリーラとディムナ』序 3 。『翻訳名義集』5「四蛇」（大正蔵34、1141c）。『太平記』27、33。平田篤胤『本教外編』上・第四「常に死候を念じ死時の審に備ふ」其二（月の鼠を詠んだ和歌三

首を引く。利瑪竇＝マテオ・リッチ『畸人十篇』「常念死候備死後審第四」其二による。『畸人十篇』に柴田篤訳〈04「信心深い王と死の太鼓」参照〉、『本教外編』上の原文対訳が石田一良『日本の思想14　神道思想集』筑摩書房にあり）。河口慧海『第二回チベット旅行記』第二部「雪山歌旅行（初篇）」中「暴雪風の大難」で死の危険に直面したわが身を振り返って言及（220ページ）。

ヨハネス・ゴビウス『スカーラ・ケーリ』435。『猫の書 *Libro de los Gatos*』48（Landau, p. 222）。ヨハニス・デ・カプア『人生の指針』12（＝1・6）。ジャック・ド・ヴィトリ『エクセンプラ』134。『ゲスタ・ロマノールム』168（cf. 114）。ボーヴェ『道徳の鑑 *Speculum Morale*』2・1・4（coll. 703f.）。『世界の姿 *Image dou Monde*』（松原秀一『異教としてのキリスト教』Ⅸ、241ページ）。『聖若撒法始末』14オ。トルストイ『懺悔』（1879、1882）4（7、14）。

参考話：グリム『ドイツ伝説集』217「竜のお出まし」（桶屋が深い穴に転落。穴の底の洞窟に二匹の竜。男に危害は加えない。岩からしみ出す塩辛い液体を糧としながら冬を越し春になると竜は飛び出して行く。その尻尾をつかんで脱出）。また、宮沢賢治『銀河鉄道の夜』9で女の子の語るイタチに追われて井戸に落ちる蝎の挿話に本話の影響を見ることはできるであろうか。

鼠が時間を表わす：『マハーバーラタ』1・41・1～30。

白と黒の表わすもの：①昼夜＝『マハーバーラタ』1・3・148、172（白と黒の糸）。ニザーミー『ホスローとシーリーン』46、60。『万葉集』巻5（794の日本挽歌の序中に「二鼠競走」）。②善悪＝『ジャータカ』440「白黒前生物語」。『増壱阿含』46第49・4。『ブッダの境涯（ラリタヴィスタラ）』26（黒い行為、白い行為）。ダヴィッド・ネール／ユンテン『ケサル王物語』（岩波文庫）プロローグⅠ。『コーラン』3・106（顔が白くなったり黒くなったりする日）。アッタール『イスラーム神秘主義聖者列伝』「ジュナイド・バグダーディー」（296ページ。罪深い思いを抱いて顔が黒くなる。師の祈りで色が薄れ始める）。③生死＝『プルターク英雄伝』1「テーセウス」17（生死を表わす白黒の帆）。ベディエ編『トリスタン・イズー物語』19。④悲しみと喜び＝ラブレー『ガルガンチュア』10。⑤果報・吉凶＝『仏弟子と信徒の物語（アヴァダーナ）』8「カチャンガラー物語」（『ラトナ・アヴァダーナ・マーラー』17。白色の果報、黒色の果報、〔黒白混じり合った〕雑色の行為にはそれなりの果報）。ラブレー『第四の書』4・3（白黒のリボンで吉凶を知らせる伝書鳩）。ジャック・ド・ヴィトリ『エクセンプラ』88（白黒の馬が幸運と不幸を表わす）。

一角獣：マルコ・ポーロ『東方見聞録』1・48「バラシャンという広大な国」（アレクサンドロス大王の愛馬の血統を引く馬が、頭上に一本の角を生やしていた）、6・183「バスマン王国」（象よりやや小型の一角獣が多数生息するが、ヨーロッパで空想されてい

る一角獣とは似ても似つかない。つまり犀のこと)。杉橋陽一『一角獣の変容』朝日出版社。R・R・ベーア『一角獣』(河出書房新社)。

Benfey, *Pantschatantra*, I, §17 (p. 80ff.)。ヴィンテルニッツ『ジャイナ教文献』pp. 134ff., 190。松原秀一、「一角獣の話」の西漸と東還、言語文化研究所紀要、1972(『中世ヨーロッパの説話』「一角獣の話」、中公文庫)。小堀桂一郎「日月の鼠――説話流伝の一事例」比較文化研究、15、1976、pp. 47~100。柳瀬睦男「月の鼠、日の鼠、時の鼠」ソフィア、36(2)、1987。平川祐弘『マッテオ・リッチ伝』2(161～165章)。岩瀬由佳、「井戸の中の男」の発展について――宗教的背景の考察、Ex Oriente、4、2000、pp. 97~122、大阪外国語大学言語社会学会編。小峯和明「その後の「月のねずみ」考」アジア遊学、79、勉誠出版、2005.9、pp. 21~32。杉田英明①「中東世界における「井戸の中の男」――佛教説話の西方伝播、二鼠譬喩譚」比較文学研究、89、pp. 68~101/②「佛教説話「井戸の中の男」の西方伝播――ペルシア文学の貢献を中心に」、井本英一編『東西交渉とイラン文化』(アジア遊学137)所収、勉誠出版、2010、pp. 78~89。松村恒「Analecta Indica, XXXIX 井戸に落ちた男補遺」大妻比較文化、7、2006、pp. 85~119のうち103~104。ルゥイトガード・ソーニー「世界を旅し経巡る物語　変装したブッダと井戸の中にいる男の寓話」国際哲学研究、4、2015、pp. 83~87。R. Pittman and J. Scattergood, 'Some Illustrations of the Unicorn Apologue from Barlaam and Iosaphat', *Scriptorium*, XXXI (1977), pp. 85~90。細田あや子、「井戸の中の男」・「一角獣と男」・「日月の鼠」の図像伝承に関する一考察、新潟大学人文学部「人文科学研究」109、pp. 89~121、2002.8。

09)三人の友(Chauvin 7)

Bombay, 48~51. Kuhn, 20~21, 49, 77~79. Jacobs, lxxvii, cxiii. Hirsh, 201. Cordoni, 481~483.

①本話と同じ「罪を犯した男と三人の友」:『雑阿含』(大正蔵2, No.101)10。『衆経撰雑譬喩』33(Chavannes 221)。ヘーマチャンドラ『パリシシュタパルヴァン』Ⅲ149～184(第17話)。ハマー＝プルクシュタル『薔薇の香油』Ⅰ175～177(13世紀のカズウィーニー『創造物の驚異』より。妻と庭園と書物。書物が真の友)。12世紀のラテン語詩「死ぬ間際の友」(小堀「三人の友の話」104～105ページ)。ジャック・ド・ヴィトリ『エクセンプラ』120。ヨハネス・ゴビウス『スカーラ・ケーリ』60。サンチェス『ABC順説話集』16。ボーヴェ『道徳の鑑 *Speculum Morale*』1・4・19(coll. 658f.。4人の友)、3・10・21(coll. 1478。3人の友)。『ゲスタ・ロマノールム』182と238。イギリス道徳劇『エヴリマン』(15c.)。デア・シュトリッカー「母猿とその二匹の子供たち」「真の友」。ハンス・ザックスの喜劇『ヘカストゥスという金持ちの臨終』、職匠歌と格言詩「人が死ぬときの三人の友」。ヘルダー「三人の友」。ホフマンスタール『イェーダーマン』。ビン・ゴリオン『ユダヤ民族の泉』164。平田篤胤『本教外編』上・第四常に死候を念じ死時の審に備ふ」の其三(利瑪竇＝マテオ・リッチ『畸人十篇』「常念死候備死後審

第四」其三による。『畸人十篇』には柴田篤訳〈04「信心深い王と死の太鼓」参照〉あり）。『聖若撒法始末』15オ。グリアソン『インド言語調査』6（165～171ページ）。『伊曽保物語』下33。『日本昔話通観28――タイプ・インデックス』421「妻の密告」。スコットランド民話「ピーブルの三司祭の三題噺」の３。

参考：ジャック・ド・ヴィトリ『エクセンプラ』17。『ゲスタ・ロマノールム』27。パウリ『冗談とまじめ』880。『カスナ・ハーン物語』「木人の第29章」（毎日千人を殺して一族や部下を養っている盗賊が、隠者に言われて、もし自分が死んだら一緒に来てくれるかと部下、両親、妻に順に問うが拒まれる。隠者に教えを受けて呪文を唱え続け、奇跡を起こす聖者となる。コロフォンによると17世紀前半のモンゴルの作品だが、確かな成立年は不明。『獅子座三十二話』の影響を受けて書かれた作品である）。『鳥のダルマのすばらしい花環』（中沢新一『鳥の仏教』新潮文庫所収。20、46、47～48、60～62、78ページ）。

②多数の友、父の半人前の友、殺人の偽装：ATU893「頼りにならない友人たち」。『シンドバードの書の起源』dimidius amicus（「ステファノ物語」17）。『マルズバーン・ナーメ』2・8「商人と賢い友人」。『ファーキハット・アル・フラファー』（Chauvin, II, 148.15）。ペトルス・アルフォンシ『知恵の教え』1（シュタインヘーヴェル142前半）。ル・グラン『ファブリオー』3・225～229。ヨハネス・ゴビウス『スカーラ・ケーリ』69。サンチェス『ABC 順説話集』18。セルカンビ『ノヴェッリエーレ』73。サンチョ四世『罰』36。フアン・マヌエル『ルカノール伯爵』48。『騎士シファール』1・5。ハンス・ザックスの職匠歌「半人前の真の友だち」、謝肉祭劇「半人前の友だち」。カルドンヌ「友情についての寓話」。ヘルダー『椰子の葉』34～38「友人たち」。ブシュナク『アラブの民話』405以下「友情の証し」。アンジャヴィー『イランの民話』185。崔仁鶴『韓国昔話の研究』753。

③三人の友、殺人の偽装（①＋②）：ATU1381C「埋められた羊の頭」。『ゲスタ・ロマノールム』129。妻を試すモチーフを含む話にシェルトン『チベットの昔話』28「違う色の目の五人の友だちを持つ男」（友たちは五人。友だちは登場しないが基本的に同じ話が、ペマ・ギャルポ『チベット民話28夜物語』2「おじいさんの三つのお話」にある）。妻を試すモチーフは『日本昔話通観28――タイプ・インデックス』421「妻の密告」と落語「骨違い」、『ゲスタ・ロマノールム』124と『シンドバードの書の起源』（senex の内。「ステファノ物語」20）にも見られる。

④不愛想な友を評価：『カターサリットサーガラ』105。パキスタンの民話「まがいの友と真の友」。

⑤友より肉親、殺人の偽装：元曲『殺狗勧夫』。『殺狗記』。ベトナム民話「死んだ犬」。『日本昔話通観28――タイプ・インデックス』167「兄弟の仲直り」。

参考：ブハーリー（9c.）『ハディース』「人生における恵」10(1) ～ (5) に、「金でいっぱいの谷を与えられたとしても、死ねばその腹を満たし、その目を覆うものは墓の土にすぎない」、同48(2) に、「復活の日になると、償うための金貨も銀貨もなく、自分が現世で行った善行」だけが役に立つ。

「妻子珍宝及王位」について：『神々との対話（サンユッタ・ニカーヤⅠ）』1・3・2・10・9～11。『ブッダのことば（スッタニパータ）』578～580。『マヌ法典』4・239～247。アシュヴァゴーシャ『ブッダ・チャリタ』20・14。『ジャータカ』521「三羽の鳥前生物語」。『大方等大集経』16。『沙石集』9・3。『宝物集』2。源信『往生要集』「大文第一・第七」（宝積経と大集経の偈を引く）。謎解きと合わせて松村恒氏の下記論文参照。

Benfey, *Pantschatantra*, I, pp. 489~493. Goedeke, *Every Man, Homulus und Hekastus*, Hannover, 1865. 高橋源次①「An Approach to the Plot of "Everyman"」英文学研究（Studies in English Literature）、18・4(1938)、pp. 477~485、東京帝国大学英文学会／② A Study of Everyman, with Special Reference to the Source of its Plot, Tokyo, Aiikusha, 1952／ ③ The Source of Everyman, 明治学院論叢、64・65（Oct. 1961）、pp. 1~9。小堀桂一郎①三人の友の話――古活字本「伊曽保物語」下巻第33話と「エヴリマン」説話、比較文学研究、30、1976、pp. 69~114。／②「エヴリマン」説話の根源と伝承――「三人の友の話」補説、比較文化研究、34、1978、pp. 178~198／③『イソップ寓話』二・三（講談社学術文庫247～256ページ）。三原幸久「AT893の類話について」（水余成者説博士還甲紀念論叢、1989、pp. 213～226）。松村恒①「Analecta Anglica, I. 道徳劇『万人』の東洋的材源」親和女子大学英語英文学、13(1993)、pp. 58~104のうち58~80／②「妻子珍宝及王位」の偈をめぐって、印度學佛教學研究、50-2（平成14、2002）、pp. 714~720。池上恵子『中世イギリス聖者伝「バルラームとヨサファトの物語」写本校訂と比較研究』学書房、第Ⅰ部Ⅴ章「「エヴリマン」と寓話」。ペトルス・アルフォンシ『知恵の教え』246～261ページ。西村正身「IT421「妻の密告」の出自について」アジア民間説話学会日本支部2001年度総会（2002.3.26、梅花女子大学）口頭発表。

10）一年だけの王（Chauvin 8）

Bombay, 51~52. Kuhn, 20, 21, 49, 79~80. Jacobs, cxv. Hirsh, 201. Cordoni, 481~483. Weisslovits, 154~160（Hommel）.

ATU944「一年間の王」。『マルズバーン・ナーメ』2・2「商人の奴隷の物語」。『ファーキハット・アル・フラファー』(Chauvin, II, 148.9)。ニザーミー『ライラとマジュヌーン』33「寓話」(通じるものがある)。ジャック・ド・ヴィトリ『エクセンプラ』9。『ゲスタ・ロマノールム』74、224。ヨハネス・ゴビウス『スカーラ・ケーリ』135。フアン・マヌエル『ルカノール伯爵』49。サンチェス『ABC 順説話集』366(310)。ボーヴェ『道徳

の鑑 *Speculum Morale*』2・1・4（coll.708）、3・10・21（coll. 1475f.）。ビン・ゴリオン『ユダヤ民族の泉』165。サデー『ユダヤの民話』239「一年ぽっきりの王」。『インドの昔話（上）』221～222「六か月の大臣職」。ヘルダー『椰子の葉』67～71「荒涼とした島」。

異国人・旅人・他人を王にする：『ジャータカ』378「ダリームカ前生物語」、529「ソーナカ前生物語」、539「マハージャナカ前生物語」。康僧会『旧雑譬喩経』7「月女」。『法句譬喩経』9。『雑宝蔵経』2・21。『生経』3・24。『獅子座三十二話』Ⅱ14。『パンチャーキヤーナ・ヴァールッティカ』34と45。『アラビアン・ナイト』308～327夜「アリー・シャールとズムッルドとの物語」（三日以内に現われた旅人）。

フレイザー『金枝篇』24「神聖な王の弑殺」、25「一時的な王」。

ヘシオドス『仕事と日』170行（大洋のほとりにある至福者の島）。ヨセフス『ユダヤ戦記』Ⅱ154～157（よき霊魂のためには、大洋の向こうに住処として祝福された者たちの島々が取って置かれている）。

地上ではなく、天に富を積め：『新約聖書』「マタイ」6・19～20。康僧会『旧雑譬喩経』12。

11）犬と腐肉（Chauvin 9）

Bombay, 55~56. Kuhn, 20. Jacobs, cxvi.

アッタール『神の書』終１。

12）子供の遺体を皆で食べる（Chauvin 10）

Bombay, 56~58. Kuhn, 20~21. Jacobs, cxvi. Weisslovits, 87f. Benfey, *Pantschatantra*, I, 391.

水攻めに遭った城中で子供を取り換えて食べる：『風俗通義』「皇覇第一。六国」（60ページ）。同じく戦乱で人肉を食べた話として『太平広記』（977年）巻270・婦人１に『新唐書』による「周廸の妻」のことが出ている（『壺の中の女（旧雑譬喩経）』49の類話注参照）。グリム『ドイツ伝説集』368「ウシピー族の舟旅」と526「獅子公ハインリヒ」（飢えに苦しむ船中で弱者や病人を殺して食べたり、籤で犠牲になる者を決めたりする）。

『ナーヤーダンマカハーオー』（喩例と法話）Ⅰ18「スンスマー」（川崎豊。ジャイナ教の聖典アンガの一篇で紀元前３世紀から紀元前後頃に書かれたとされる）。

川崎豊「飢えと屍肉：何のための食事か」（印度民俗研究、15、日本南アジア学会、2016、pp. 3~20）。谷川泰教「子肉の喩（Puttamaṃśupamā）」、高野山大学論叢、35、2000、pp. 1~22。アンデス山脈の飛行機墜落事故（1972年）。

参考：飢える両親にわが身を供する息子：『大方便仏報恩経』1・2。『菩薩本生鬘論』1・3。『賢愚経』7。捨身飼虎は飢えた虎の親子にわが身を供する話（『ジャータカ・マーラー』1。『六度集経』4。『金光明経』4・17）。『旧雑譬喩経』45「わが身を供養する兎」。

13）庭園主（Chauvin 17A）

Bombay, 61~62. Kuhn, 21.

14）托卵するカーディム鳥（Chauvin 17B）

Bombay, 62~63. Kuhn, 21. Jacobs, cxvii. Weisslovits, 119

アッタール『神の書』13・9。

15）動物に理解させる言葉（Chauvin 17C）

Bombay, 63~64.

16）二つの太陽

Bombay, 66~68. Jacobs, cxvi. Weisslovits, 94f.

『法華経』（40～220年）巻3第5「薬草」にすべてを潤す雨水の話と陽光の話）。『コーラン』24・35（神は天地の光、ともし火のある壁龕のよう）。ガザーリー『光の壁龕』。

17）王と大臣と貧しい夫婦（Chauvin 11）

Bombay, 71~79. Kuhn, 22~23, 74. Jacobs, cxviii. Hirsh, 202.

アシュヴァゴーシャ『ブッダ・チャリタ』26・57（富んでいても満足がなければ常に貧しい、貧しくとも満足していれば常に富んでいる）。マニ教断片（Henning, pp. 89~104）。『マルズバーン・ナーメ』（13c.）72、74ページ。ジャック・ド・ヴィトリ『エクセンプラ』78。サンチェス『ABC順説話集』350(288)。『イフワーン・アッサファー書簡集』第4部第7書簡「神への呼びかけのあり方」（ジマレ Gimaret, 37ページ）。

王がお忍びで町に出る：『六度集経』90（「04　信心深い王と死の太鼓」の参考話参照）。『アラビアン・ナイト』「三つの林檎の物語」（19夜）、「カリフ、ハールーン・アル・ラシードとにせカリフとの物語」の286夜。ガラン版『千一夜物語』西尾哲夫訳第五巻「眠ざめて眠る者の話」（補遺バートン版1・大場正史訳河出書房版『千夜一夜物語』8「眠っている者と目覚めているもの」）と同じくガラン版第五～六巻「カリフ、ハールーン・アッラシードの冒険」（補遺バートン版4・大場正史訳河出書房版『千夜一夜物語』8「教主の夜の冒険」）。イブン・ハルドゥーン『歴史序説』序論4。

人の皮を張った太鼓：『増壱阿含』巻43善悪品第47・10（死児の皮。百年に一度鳴らせと王が命じる）。

大場正史訳バートン版『千夜一夜物語』1「漁師と魔神の物語」の「魔法にかかった王子の話」第7夜の塵塚に付された注に、「東洋の諸都市の郊外にある塵埃の山で、中には（カイロ付近のもの）高さ百フィート（約三〇メートル）を超えるものがある」とある。「塵塚」を前嶋信次は（「石と化した王子の話」）「瓦礫の丘」と訳している。

18）泳げる男とその兄弟／友（Chauvin 12）

Bombay, 78~79. Kuhn, 22~23. Jacobs, cxix.

19）金持ちの若者と貧しい娘（Chauvin 13）

Bombay, 80~82. Kuhn, 22~23. Jacobs, cxix. Hirsh, 202. Cordoni, 481~483.

バル・ヘブラエウス『笑話集』6（金持ちの愚人より貧しい賢人に娘をやる）。ヨハネ

ス・ゴビウス『スカーラ・ケーリ』557。サンチェス『ABC 順説話集』348(286)。

参考：フアン・マヌエル『ルカノール伯爵』24。

20）ビラウハルの年齢（Chauvin 108p.）

Bombay, IH, Balavariani, WB では12歳。Halle には記述なし。IB は未確認であるがおそらく12歳。ルーダキーと同時代の韻文断片（系統図のペルシア語１、Henning, 1962, p. 95, 1.13）には「子供」という語が見えるので12歳か。BJ, SH, LA, E876, P257, BY では45歳。加津佐、バレト写本には記載なし。すべての実年齢は60～70前後。「所収話対照一覧」の補足１のルードルフ・フォン・エムスでは45歳。同一覧補足２の *The Whole Life of Prince Jehosaphat* には記載なし。*The Lýf of Saýnt Balaam* では45歳。同一覧補足３の『聖若撒法始末』には記載なし（この版の所収話構成はバレト写本と同じ）。フジュウィーリー（1072頃没）『覆われしものの開示』に、年齢を問われたバーヤズィードが４歳と答えた逸話が記されている（ニコルソン『イスラムの神秘主義』第２章75ページ）。

21）雀と庭師（Chauvin 14）

Bombay, 85~86. Kuhn, 21~23, 49, 75~76. Jacobs, lxxx-lxxxi. Hirsh, 199. Cordoni, 481~483.

康僧会『旧雑譬喩経』2（Chavannes 90）、『六度集経』20（Chavannes 20）。『イソップ寓話集』（中務哲郎訳）Aesopica 4「ナイチンゲールと鷹」（この鷹は胃袋を満たすに足らぬ餌であっても、手中にあるものを手放してしまうのは愚かであることを知っている。こうした寓話もあるいは「雀と庭師」の成立に寄与しているのかもしれない。同じく Aesopica 18「漁師と鰊」も同趣旨の寓話である）。

アッタール『神の書』13・14。バル・ヘブラエウス『笑話集』382。『アンワーリ・スハイリー』1・19。Clouston, *A Group of Eastern Romances and Stories from the Persian, Tamil and Urdu*, 1889(5「ペルシアの物語」の9)。『バカーヴァリーの薔薇』4（Clouston, a.a.O., pp. 237~352)。『千夜一夜物語』バートン版補遺7(151～164ページ)。ビン・ゴリオン『ユダヤ民族の泉』171。サデー『ユダヤの民話』81。

ペトルス・アルフォンシ『知恵の教え』22「農夫と小鳥」。ジャック・ド・ヴィトリ『エクセンプラ』28。ヨハネス・ゴビウス『スカーラ・ケーリ』101。『ゲスタ・ロマノールム』167。サンチェス『ABC 順説話集』124(53)。ル・グラン『ファブリオー』4・27～34「小鳥の歌」。ルター『卓上説教集』7051。ハンス・ザックスの職匠歌「小夜啼鳥」。ヴィーラント「小鳥の歌」。リドゲイト「田舎者と小鳥の物語」。ウェイ「小鳥の歌」。『伊曽保物語』下31「鳥、人に教化をなす事」（シュタインヘーヴェル147・6より）。司馬江漢『春波楼筆記』（1811）464ページと『無言道人筆記』（乾18、坤123)。大蔵虎明『わらんべ草』35段。『聖若撒法始末』13オ。

小堀桂一郎『イソップ寓話』二・三（244ページ）は、『パンチャタントラ』に姉妹説話があるとしているが、どうであろうか。Ⅳ主話「猿と亀」や広本３・14「黄金の糞を

する鳥」を指すようであるが、この話の類話とは言えないであろう。

参考：『イソップ寓話集』（中務哲郎訳）Aesopica 159「狼と羊」（バブリオス53。本当のことを三つ言ったら逃がしてやると羊に言う狼）。『トゥーティー・ナーメ』（ナハシャビー5、カーディリー7。王の病を半分治し、あとの半分は放してくれたらと言って飛び去る鸚鵡）。

G. Paris, *Le lai de l'Oiselet*, Paris, 1883. Benfey, *Pantschatantra*, I, §159（p. 380f.）. 松原秀一① Le Lai de l'Oiselet について、芸文研究、1963／②「小鳥の歌」について、西脇順三郎先生記念論文集、p.38／③「小鳥の歌」の話――東西説話交流の一面、比較思想研究、4、p.53／④『中世ヨーロッパの説話』「小鳥の歌」中公文庫。小堀桂一郎①「小鳥の唄」の発祥、比較文学研究、65（説話の流伝と変容〈特輯〉）、1994、pp. 3~21／②「小鳥の歌」の伝承―2、比較文化研究、24、1985、pp. 33~62／③『イソップ寓話』二・三（講談社学術文庫236～247ページ）。松村恒①物語伝播における仏典の役割――「小鳥の教訓」を一例にして――、四天王寺、501（1982.9）、pp. 38~56／② Analecta Indica, XXXVIII「小鳥の教訓補足」、大妻比較文化、7、2006、pp. 85~119のうち94～103。

22）荒野の庭園（Chauvin 17D）

Bombay, 114~116. Jacobs, cxxii.

23）王と兵士（Chauvin 17E）

Bombay, 119~120.

24）飼い馴らされたガゼル（Chauvin 15）

Bombay, 123~125. Kuhn, 24. Jacobs, cxxv. Hirsh, 203.

25）悪魔が安心する服

Bombay, 131.

参考：ブハーリー『ハディース』（9c.）「知識の書」40に、「現世で着飾った者の多くは来世では裸となるであろう」、「聖戦」177（1）に、「このようなもの（＝絹の服）は来世の報いに与れない者の服にすぎない――或いは、このようなものは来世の報いに与れない者だけが着るのだ」。

26）偽ビラウハルの捕縛

Bombay, 142.

『聖若撒法始末』16ウ。

27）ナシーファ王カーシド（Chauvin 17F）

Bombay, 152~160.

28）ブッダとアンカー鳥の雛（Chauvin 17G）

Bombay, 166~169.

29）金持ちと苦行者と妬み男（Chauvin 17H）

Bombay, 188~190.

30）子供たちを請け出す王（Chauvin 17I）

Bombay, 198~200.

31）王と盲目の老婆（Chauvin 17J）

Bombay, 200~203.

32）罵り合う二人の男（Chauvin 17K）

Bombay, 204~206.

33）騙し取られた宝石を取り戻す（Chauvin 17L）

Bombay, 211~216.

34）二人の兄弟（Chauvin 17M）

Bombay, 217~218.

35）猿に助けられた二人の王子（Chauvin 17N）

Bombay, 219~221.

『イフワーン・アッサファー書簡集』第４部第３書簡「イフワーン・アッサファーの教義の解説」。

36）狂人の町の医者（Chauvin 17O）

Bombay, 224~226.

『イフワーン・アッサファー書簡集』第４部第３書簡「イフワーン・アッサファーの教義の解説」。

37）金の壺（Chauvin 17P）

Bombay, 230~233.

38）ある雛鳥の物語（Chauvin17Q）

Bombay, 241~245.

39）兵士とその好色な妻（Chauvin 17R）

Bombay, 251~252. Jacobs, cxxx.

40）女を見たことのない少年（Chauvin 16）

Bombay, 254~256. Kuhn, 80f. Jacobs, lxxxvii~lxxxviii, cxxx~cxxxi. Hirsh, 203. Cordoni, 481~483.

ATU1678「１度も女を見たことのない少年」。『シンドバードの書の起源』554～556ページ（daemones）。

『マハーバーラタ』3・110・11～113・24（リシュヤシュリンガ仙）。『ラーマーヤナ』1・9。アシュヴァゴーシャ『ブッダ・チャリタ』4・19（リシュヤシュリンガへの言及）。『破僧事』12。『摩訶僧祇律』1（Chavannes 342）。『大智度論』17・28（一角仙人と扇陀。耶輸陀羅の因縁話として。『法苑珠林』71）。『経律異相』39・16（Chavannes 453）。『大

唐西域記』2・4・16。『今昔物語集』5・4。『三国伝記』2・28。『鳴神』。シーフナー『チベットの物語』15。『ジャータカ』523「アランブサー天女前生物語」、526「ナリニカー姫前生物語」。クシェーメーンドラ『菩薩の偉業物語の如意蔓 *Bodhisattvâvadânakalpalatâ*』65「エーカシュリンガ（仙）物語」（引田弘道訳）。R. Basset, *Vie d'Abbâ Yohanni*, p. 436~438。『ノヴェッリーノ』14。ヨハネス・ゴビウス『スカーラ・ケーリ』89。サンチェス『ABC 順説話集』300(231)。ジャック・ド・ヴィトリ『エクセンプラ』82。ボッカッチョ『デカメロン』4序。ハーゲン『奇談全集 *Gesamtabenteuer*』23「鵞鳥」。ラ・フォンテーヌ『コント』3・1「フィリップ爺さんの雁」。『聖若撒法始末』19ウ。

アッタール『イスラーム神秘主義聖者列伝』「ズン・ヌーン」（126ページ以下。30年過ごした山中の修道所の前を女が通りかかったのでそのあとを追おうとすると、「今になって悪魔に従うのか」という声が聞こえる。男は一歩外に踏み出した足を切り落とす）。

参考：『ジャータカ』167「美しいサミッディ長老前生物語」（本話のあとでヨアサフを試す王女の台詞に通じる）、263「小誘惑前生物語」。

岩本裕①『佛教説話の源流と展開』pp. 279～298「女色に敗れた一角仙人」／②『仏教説話』「女色に敗れた一角仙人」／③『佛教聖典選』1「初期経典」pp.337～407「一角仙人」。

41）女色の誘惑

アシュヴァゴーシャ『ブッダ・チャリタ』5・45～63（王子を引き留めるために送り込まれた娘たちは、目的を遂げられずにそれぞれだらしなく眠り込んでしまう。その醜い寝姿を見た王子は出奔を決意する）。同様の場面は『仏本行集経』16・21上、『方広大荘厳経』15、『仏説普曜経』12、『中本起経』2等にある。『聖若撒法始末』20オ。

ヨハンネス・デ・アルタ・シルウァ『ドロパトス』で、王子に口を利かせようとした王妃（義母）が娘たちに王子を誘惑させるが、埒が明かずに自身が誘惑に乗り出す場面は、ギリシア語版『バルラームとヨアサフ』の影響であろう（拙訳61～68ページ）。

「01　枠」のうち「寝乱れた女たちを見る」参照。

参考話：『大智度論』17・28（五百の仙人と緊那羅）。吉田兼好『徒然草』8（久米の仙人）。

42）ブーダーサフの幻／夢

ギリシア語版『バルラームとヨアサフ』は『新約聖書』「ヨハネの黙示録」21～22の影響を受けているとされる（Hirsh, 192）。『聖若撒法始末』20ウ。

43）孔雀と鴉（Chauvin 17）

Bombay, 265~268. Kuhn, 29~31, Jacobs, cxxxi.

『ジャータカ』339「バーヴェール前生物語」（このバーヴェールはバビロンのことと

いう――E・R・グルーバー／H・ケルステン『イエスは仏教徒だった』60f.)。『摩訶僧祇律』17。『生経』51。『経律異相』39・5（孔雀経。Chavannes 452)。

参考（孔雀の羽根を挿した鴉）：ATU244「借りた羽根をつけたワタリガラス」。『イソップ寓話集』（中務哲郎訳）Aesopica 101「黒丸烏と鳥たち」。

44）金持ちと渡し守（Chauvin 17S）

Bombay, 283.

参考：『方広大荘厳経』（ラリタヴィスタラ）26・1（初転法輪。渡し守が僧の船賃を取らなくなる理由)。

45）白髪を見て悔い改める王（Chauvin 18A）

イブン・バーブーヤ（IB)。Kuhn, 15（*Kitab al-Budd*）. Jacobs, cxxvi.

『ジャータカ』9「マカーデーヴァ前生物語」、509「大々的な出家前生物語」、525「チュッラスタソーマ前生物語」、541「ニミ王前生物語」。『中阿含』No. 67。『増壱阿含』48・50・4。『法句比喩経』4・38。『六度集経』87。アン・ナディーム『フィフリスト』8・3「有名・無名のペルシア人、ギリシア人、インド人、アラブ人著作家たちに拠る訓戒・格言・金言について書かれた書物名」の中に「白髪の王と、彼が大臣たちや王国の者たちとの間で行なった対話の書」がある（竹田新225ページ、Flügel, 316. Dodge, 740)。『グリム童話集』KHM177「死の使者」。ジマレ（Arabica, t. XX, Leiden, 1973）は、この物語がイラン以西の禁欲文学の一部を成していたのではないかと言う（竹田新225f.)。

46）髑髏（Chauvin 18B）

イブン・バーブーヤ（IB)。Jacobs, lxxxv, cxxvii.

王の髑髏か、貧人の髑髏か：フナイン・イブン・イスハークが引用するギリシアの賢者の言葉（竹田新226)。

髑髏の目や口に土を入れる（少しの土で満たせる目)：『バビロニア・タルムード』Tamid, 32b（竹田新226)。

47）無常を知り出奔した王子（Chauvin 18C）

イブン・バーブーヤ（IB)。Kuhn, 15（『ユーダーサフだけの書』＝『ブーダーサフだけの書』からの借用)。Jacobs, cxxviii.

四門出遊、三歩の逸話：アル・マーリキーがアル・ムザニー（723没）からの話としてイスラエルの王子が病人・老人・死人に出会うエピソードを記していることから、ジマレは、この話はヒジュラ暦１世紀から禁欲文学に加えられていたようだという（竹田新、注44)。四門出遊については「01　枠」も参照。

他国の王との会見：ブッダとマガダ国王ビンビサーラとの経験を想起させる。イブン・アル・ムカッファに帰せられる作品（『ブーダーサフだけの書』）等をも想起させるという（竹田新227)。

結婚式の夜に妻のもとから逃げる：『聖アレクシス伝』（松原秀一『異教としてのキリスト教』Ⅶ参照）。

48）死体と一夜を過ごした王子（Chauvin 18C_1）

イブン・バーブーヤ（IB）。

トゥルファン断片（ル・コック、1911、pp. 5~7、T.II D.176）。『イフワーン・アッサファー書簡集』第4部第7書簡「神への呼びかけのあり方」（Gimaret, 37p.）。アッタール『神の書』19・10。

49）毒蛇の入った黄金の箱（Chauvin 18C_2）

イブン・バーブーヤ（IB）。ペルシア語断片（Henning, 1962, pp. 97~98）。

参考：『修行道地経』6・24（Julien, 52。火中から財宝の入った箱ではなく毒蛇の入った箱を持ち出す）。『日本昔話通観28――タイプ・インデックス』85「舌切り雀」参照。

50）兄を救いに行く弟（Chauvin 18C_3）

イブン・バーブーヤ（IB）。

この話に含まれる「井戸の中の男」のモチーフについては08を参照。

51）羅刹女（Chauvin 18C_4）

イブン・バーブーヤ（IB）。Kuhn, 81. Jacobs, lxxxvi, cxxix.

『ジャータカ』196「雲馬前生物語」。『中阿含』No. 136。『増壱阿含』巻41・第45・1「馬王品」。『毘奈耶』巻47～48。『六度集経』37、59。『仏本行集経』巻49第50。『出曜経』21。『大唐西域記』11・1・3。『今昔物語集』5・1。『宇治拾遺物語』6・9。チェンバース『チベットの民話』「美しい女たちの島」235ページ。

岩本裕①『佛教説話の源流と展開』305～318ページ／②『仏教説話』「セイロン島綺談」のうち「夜叉の島セイロン」以下。

52）アレクサンドロスと少年

イブン・ハスダーイ（IH）6・1。

参考：『旧約聖書』「ヨブ記」32・9～10（日を重ねれば賢くなるというのではなく／老人になればふさわしい分別ができるのでもない。／それゆえ、わたしの言うことも聞いてほしい）。『法句経（ダンマパダ）』260（頭髪が白いから長老なのではない。年をとっただけなら「空しく老いぼれた人」と言われる）。

53）危険な愛

イブン・ハスダーイ（IH）6・2。

『旧約聖書』「創世記」37（父に愛されるヨセフを妬んだ兄たちがヨセフをエジプト人に売る）、39（言い寄るポティファルの妻を拒む。この話は『シンドバード物語』の枠物語のモチーフでもある）。

54）海鳥と釣り針（Chauvin 19）

イブン・ハスダーイ（IH）９。Jacobs, cx.

『ジャータカ』546「大トンネル前生物語」の偈1467／17(96p.）と偈1514／64(114p.）参照（あたかも魚が、鉤についた肉で／覆われた釣り針を、／生肉に欲がわいて、／自分の死を招くものとは知らないように)。この偈の背景におそらく本話がある。同97ページ上に「釣り針を飲みこんだ魚」という表現が見える。『ブーダーサフだけの書』（スカルチャ訳73ページ)。

参考：①星影をついばむ＝『タントラ・アーキヤーイカ』Ⅰ偈95。ナーラーヤナ『ヒトーパデーシャ』Ⅳ偈106。『パンチャタントラ』広本Ⅰ偈276。シリア語版『カリーラとディムナ』Ⅰ偈62。アラビア語版『カリーラとディムナ』Ⅰ81ページ上（花間隆氏の御教示)。『南印パンチャタントラ』Ⅰ偈93。ヨハニス・デ・カプア『人生の指針』27（Ⅱ15)「水鳥と水に映る星」。『アンワーリ・スハイリー』Ⅰ17「水面に映る月を魚と思い込んだ鵞鳥」。

②梟と会って射殺された白鳥：『パンチャタントラ』広本Ⅰ14。『ヒトーパデーシャ』Ⅲ4。『パンチャーキヤーナ・ヴァールッティカ』20。

③狐の上に落ちた枝：『百喩経』48。

Benfey, *Pantschatantra*, I, §76（p. 227f.）.

55）人糞の臭い

イブン・ハスダーイ（IH）12・2（Weisslovits, 88)。

56）断食するヨセフ

イブン・ハスダーイ（IH）12・3。

『旧約聖書』「創世記」47・13～26参照（エジプトが飢饉に襲われたときのヨセフの政策)。

57）ダヴィデとツィクラグの碑文（Chauvin 20）

イブン・ハスダーイ（IH）16・2。

ツィクラグについては『旧約聖書』「サムエル記」上27・6参照（ダヴィデに与えられた町の名)。

58）王と断食中の羊飼い（Chauvin 21）

イブン・ハスダーイ（IH）16・3。Jacobs, cxxvii.

59）披露宴に出ようとした犬（Chauvin 22）

イブン・ハスダーイ（IH）17。Jacobs, cxxvi.

参考（愚かな犬)：『イソップ寓話集』（中務哲郎訳）Aesopica 133「肉を運ぶ犬」（ラ・フォンテーヌ『寓話』6・17)。『経律異相』44・20の後半（十巻譬喩経。Chavannes, 462）とスウィンナートン『インドの夜の楽しみ』64「ピーコーアの野犬」には、川の真ん中でどちらの岸に行けばいいのか迷って溺死した犬が登場する。

60）恋をしてまともになった王子（Chauvin 23）

イブン・ハスダーイ（IH）18・2。Kuhn, 43. Jacobs, cxx.

参考：ボッカッチョ『デカメロン』5・1（本話の影響があるとされる）。

61）アレクサンドロスの演説（Chauvin 24）

イブン・ハスダーイ（IH）20・2。

「今いずこ」：ペトルス・アルフォンシ『知恵の教え』33「アレクサンドロス大王の黄金の墓」、34「己が魂を戒める隠者」、同書 pp. 341～344参照。ヨハネス・ゴビウス『スカーラ・ケーリ』456、733D。

62）暴君と召使い（Chauvin 25）

イブン・ハスダーイ（IH）24・1。Jacobs, cxxii.

63）動物の言葉（雄鶏の教え）（Chauvin 26）

イブン・ハスダーイ（IH）24・2。Kuhn, 43, 81. Jacobs, lxxxi, cxxiii.

ATU670「動物のことばがわかる男」。『シンドバードの書の起源』praeceptum galli（雄鶏の教え）。康僧会『旧雑譬喩経』21「牡羊の忠告――動物の言葉」（Chavannes 112）。『ジャータカ』386「ロバの子前生物語」。『ラーマーヤナ』2・35。『イソップ寓話集』（B.E.Perry）Aesopica 717「主人のことを話す雄鶏と馬」。『トゥーティー・ナーメ』（ナハシャビー43、ローゼン訳27・4）。『アラビアン・ナイト』序話「驢馬と牡牛との話」。『ゲスタ・ロマノールム』グレーセ版補遺1・13のうち。ストラパローラ『楽しい夜』12・3。ヴィクラム『道中よもやま話』44。ビン・ゴリオン『ユダヤ民族の泉』20「動物たちの言葉」。サデー『ユダヤの民話』14。アファナーシエフ『ロシア民話集』592～594ページ「狩人とその妻」。コックスウェル『北方民族の民話』2・6・3（打ち明けて死ぬ珍しい話）。江口一久ほか訳『語りつぐ人びと＊アフリカの民話』213ページ以下「動物のことばがわかる男」。竹原新『イランの口承文芸』047。

64）五種の人間（最も○○なのは誰か）

イブン・ハスダーイ（IH）26・1。

65）老裁判官（Chauvin 27）

イブン・ハスダーイ（IH）26・2。

66）商人と二人のならず者（Chauvin 28）

イブン・ハスダーイ（IH）27。Kuhn, 82. Jacobs, lxxxiv, cxxiv.

ATU763「宝を見つけた者たちが殺し合う」。康僧会『旧雑譬喩経』24（道端の大金を巡る殺し合い。Chavannes, 115）。『ジャータカ』48「ヴェーダッバ前生物語」。シーフナー『チベットの物語』19。シェルトン『チベットの昔話』8「欲張り」。『アラビアン・ナイト』152夜「商人とふたりの詐欺師との話」とバートン版『千夜一夜物語』補遺「シャー・バハト王とその大臣」12日目「三人の男と主イーサーの物語」。『ファーキハット・アル・

フラファー』(Chauvin, II, 148.18)。『マルズバーン・ナーメ』3・1。顔茂猷『廸吉録』9。孫晋泰『朝鮮民譚集』寓話・頓智説話・笑話4。崔仁鶴『朝鮮昔話百選』87。崔仁鶴『韓国昔話の研究』468 (e)。馬場英子・瀬田充子・千野明日香編訳『中国昔話集』148（三人の盗賊)。チョーサー『カンタベリー物語』「免罪符売りの話」。『ノヴェッリーノ』83。ザックスの謝肉祭劇70「切り株の中の死神」。シュヴァルツバウム『ユダヤと世界のフォークロア』No. 77a、95ページ。Fr. Rückert, 'Eine persische Erzählung', *ZDMG*, XIV, 1860, pp. 280~287（アッタールの詩の翻訳紹介)。

クラウストン『*Popular Tales*』I, 379~406。中込重明「風呂敷再考」(『落語の種あかし』所収)。

67）熊と猪（Chauvin 29）

イブン・ハスダーイ（IH）30・1。

68）パンについた髪の毛（Chauvin 30）

イブン・ハスダーイ（IH）30・2。

69）人形で夫をだます浮気妻（Chauvin 31）

イブン・ハスダーイ（IH）30・3（Weisslovits, 124f.）

70）自分の喉を切った猿（Chauvin 32）

イブン・ハスダーイ（IH）31・1。Kuhn, 43~44.

参考：『タントラ・アーキヤーイカ』1・1「猿と楔」。『パンチャタントラ』（小本・広本）1・1。『カリーラとディムナ』シリア語版1・1、アラビア語版1・2。ナーラーヤナ『ヒトーパデーシャ』2・1。

71）織物職人（Chauvin 33）

イブン・ハスダーイ（IH）31・2。Kuhn, 43~44.

72）金持ちとラザロス

BJ9[1], BY58.

『新約聖書』「ルカ」16・19～31。

73）結婚式

BJ9[2].

『新約聖書』「マタイ」22・1～14、「ルカ」14・15～24。

74）賢い娘たちと愚かな娘たち

BJ9[3], BY60.

『新約聖書』「マタイ」25・1～13。

75）放蕩息子

WB118, BJ11[1], SH13[1], BY73[1].

WB では、父アベネスを埋葬したヨダサフが、帰宅した放蕩息子のように父を迎えて

くださいと主に祈る。

ATU935「放蕩息子の帰宅」。『新約聖書』「ルカ」15・11～32。

参考：『法華経』巻2第4「信解品」（長者窮児の比喩）。

76）良き羊飼い

BJ11[2], SH13[2], BY73[2].

『新約聖書』「マタイ」18・12～14、「ルカ」15・4～7。

77）ペテロの否認

BJ11[3], BY74.

『新約聖書』「マタイ」26・69～75、「マルコ」14・66～72、「ルカ」22・54～62、「ヨハネ」18・15～18、18・25～27。

78）アリスティデスの弁証論

井谷嘉男訳あり。

『黄金伝説 LA』No. 174「聖バルラームと聖ヨサパト」、第4巻、391～392ページ。酒見紀成訳（E876）166ページ左。加津佐版142ページ。バレト写本210ページ。『聖若撒法始末』18ウ。

ガワー『恋する男の告解』5・2(426～445ページ)。

以上